

建築生産システムとしての 現場ネットワーク ～その課題と展望～

「JV現場ネットワークの構築と運用ガイドライン」の視点から

ハザマ 企画部 情報システム室
落合 純一

「JV現場ネットワークの構築と運用ガイドライン」の視点から

1

ガイドライン作成のねらい
初版、補足版の統合と再編成

2

ガイドライン策定上の
課題と解決策

ガイドライン作成のねらい

初版、補足版の統合と再編成

JVの現場事務所内にネットワークを構築する場合の問題点

- JV現場内での電子的な情報交換が円滑にできない
- 幹事会社以外のJV構成会社の社員(以下JV職員という)は自社の企業内ネットワークにさえ接続できないことが多い
- 発注者、設計者、コンサルタント及び協力会社等(以下外部関係者という)との電子的な情報交換が十分にできない場合がある



JV現場のネットワークの構築方法、取り決め等を汎用的な具体例で示すことで、これらの問題点を解決し運用がスムーズに行えるようになることを目指している。

ガイドライン作成のねらい

初版、補足版の統合と再編成

「JV現場ネットワークの構築・運用に関する調査」を踏まえ、分かりやすさと普及させることを目的に

JV職員を対象として

「利用者編」の小冊子を分冊として作成

JV現場ネットワークの担当者を主な対象として

第2版を作成

また、新技術対応及び図表等を多用

ガイドラインの利用

1. JV運営委員会又は施工委員会での雛型資料として
2. 現場事務所ネットワーク構築の社内標準作成の参考として
3. 現場事務所ネットワークのシステム設計を外注する場合の指示図書として
4. 社内教育等の資料として

各社のセキュリティを維持しつつ、コストを抑え、JV現場ネットワークを構築することに寄与

ガイドライン策定上の課題と解決策

各社のポリシーの違い

初版の「現場での活用方法」の手順を事例として纏めた。その際、擬似的にJV現場ネットワーク構築会議を開いた。

策定時点での、技術、コストを勘案し、各社のポリシーに抵触せず、セキュリティを維持可能と考えられる事例を作成

ガイドラインの今後

今後とも先進的なITの調査を継続し、時流に即したJV現場のネットワーク構築に有用な技術を本ガイドラインに反映すべく適宜改定を行っていく予定である。

それに伴い、さらに本ガイドラインが利用されることを期待する。